

北海道浮魚ニュース

平成 21 (2009) 年度 12 号 (通巻 No.283)

2009 年 8 月 5 日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

◎平成21年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報発表される

8月4日に予報文が発表されましたのでお知らせします。

なお、下記のホームページに、より詳細な予報文が掲載されていますので、ぜひご覧下さい。

水産庁 URL : [//www.jfa.maff.go.jp/j/press/index.html](http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/index.html)

【 漁況予報 】

予報期間 ; 2009年8月～12月

対象海域 : 北西太平洋 (道東沖から常磐沖)

対象漁業 : サンマ棒受網

魚 体 : 大きさは肉体長 (≒体長) で表示し、便宜的に大型魚 (29cm以上)、中型魚 (24～29cm未満) および小型魚 (20～24cm未満) と区分した。

① 来遊量

来遊量は前年を下回る。

② 魚体

漁期始めは大型魚が主体であるが、漁期中盤から中小型魚の割合が増加する。

漁期全体では前年に比べ中小型魚の割合が増加する。

③ 漁期・漁場

大型船出漁後の漁場は、道東沖から色丹島沖に形成される。三陸沖への南下時期は平年より一旬早く、漁場形成は9月下旬になる。

《解説》

① 来遊量

2002年以降の東北区水産研究所による6月～7月の漁期前調査結果から、漁期前のサンマの分布は毎年東経155° 以東で多いことが明らかになっている。また、サンマ棒受網漁船のCPUEは9月～10月にピークとなる。このことから6月～7月の沖合に分布していたサンマ群が、棒受網漁船の盛漁期に漁場へ来遊していると考えられる。

2009年6月～7月に東経143°～西経165°の海域で東北区水産研究所(北海道教育庁北鳳丸(用船)、山口県立水産高校青海丸(用船))が中層トロールを用いて行った漁獲調査から、サンマの分布は今年も東経155° 以東で多かった。同海域における推定資源尾数は601億尾であり、昨年の396億尾を上回ったものの、今年は大魚の割合が16.4%と昨年(61.1%)に比べ低かったため、推定資源量は351万トンと前年(483万トン)を下回った。

また、北海道立釧路水産試験場が北辰丸により7月に北緯40°30'～46°30'、東経149°30'～162°30'で行った流し網調査では、流し網1反あたりの漁獲尾数は11.7尾であり、前年(14.9尾)を下回った。

さらに、5月～7月に東経150°44'～166°54'で行われた水産総合研究センター開発調査センターのサンマ棒受網調査では、魚群の発見が少なかった。そのため前年に比べ操業に到った日数が少なく、総漁獲量も減少した。

以上のように漁期前に行われた調査の結果から、来遊量は前年を下回ると判断した。

② 魚体

東北区水産研究所が2009年6月～7月に行った漁期前調査結果では、東経160° 以西では大型魚主体であり、東経160° より東では中小型魚の尾数が非常に多かった。調査海域全域における大型魚の割合は16.4%で前年(61.1%)を大きく下回り、2002年以降では最も低かった。7月の東経162°30' 以西で行われた北海道立釧路水産試験場北辰丸による流し網調査結果では、大型魚が65

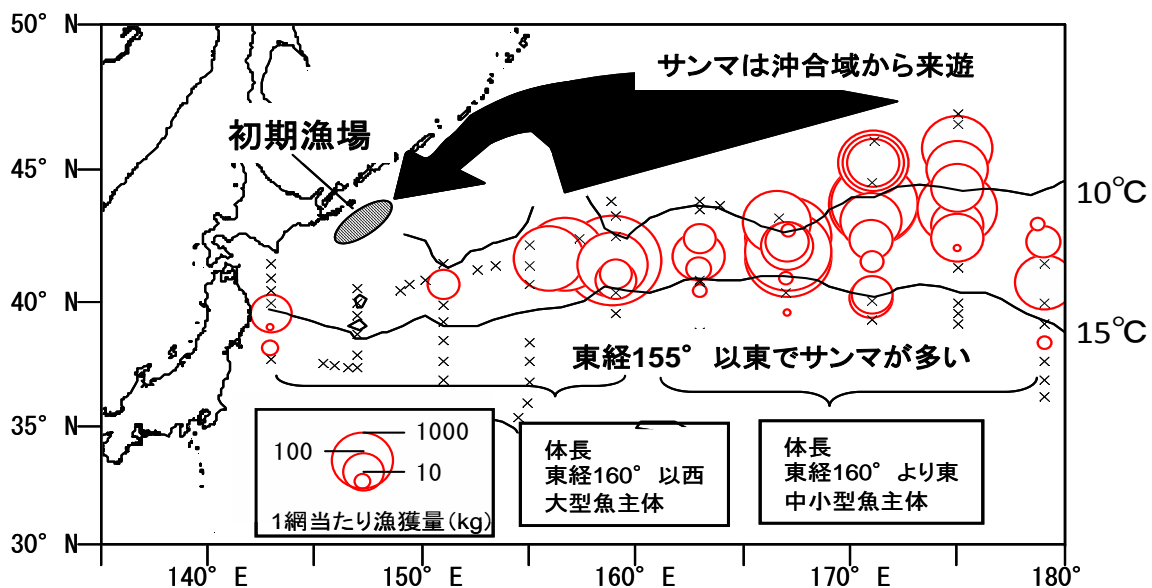
%であり、前年（86%）よりは低かった。概ね東経160°以西で行われた開発調査センターによる漁獲物の体長頻度分布は2峰型を示し、大型魚主体に中小型魚も漁獲された。2002年以降の漁期前調査から、漁期前に東経155°以東に分布していたサンマは漁期になると日本近海に来遊すると考えられている。これらのことから、漁期始めは、漁期前に東経160°以西に分布していた大型魚主体群が漁場へ来遊し、漁期中盤以降は、漁期前に東経160°以東に分布していた群が来遊する。このため、漁期の経過とともに中小型魚の割合は増加し、漁期全体では前年に比べ中小型魚の割合が大きく増加する。

③ 漁期・漁場

近年（過去5年間）の8月下旬における漁場の平均表面水温は15.0℃であった。7月下旬現在、道東沖漁場では表面水温は11～13℃で漁獲されている。表面水温は例年8月下旬にかけてさらに上昇する。今年、道東海域の表面水温は前年と比べ低めで推移しており、気象庁の海面水温・海流1ヶ月予報（平成21年8月1日から8月31日）によると、8月下旬の道東海域の表面水温は前年と比べ低めになると予想されている。また、8月20日の予測水温図では表面水温15℃の等温線は釧路沖から東の方向へ延びている。これらのことから、大型船出漁後の初期漁場は前年（色丹島～択捉島沖）よりやや南側の道東沖から色丹島沖に形成される。

三陸海域（北緯41°30'以南、東経143°以西）の過去10年の平均初漁場形成日は10月上旬であり、前年も同様であった。海況予報では9月下旬における襟裳岬南の親潮第1分枝の張り出しは前年並みであり、さらに南南西の三陸沖には冷水域が存在する。また、三陸沖にはサンマの南下を阻む暖水塊は存在しないことから、三陸海域へのサンマの南下は前年よりもやや早いと考えられる。従って、三陸海域における初漁場の形成は前年より早く9月下旬となる。

漁期前調査(6月～7月)結果のまとめ (中層トロール調査によるサンマの分布)



【海況予報】

予測期間：2009年8月～9月

対象海域：北西太平洋

釧路南東沖の暖水塊は停滞し、親潮第1分枝の張り出しは一時的にかなり北偏となるものの、三陸近海には冷水域が形成される。

なお、海況の今後の見通しについては、下記のホームページを参照下さい。

東北区水産研究所（東北海区海況予報）

<http://tnfri.fra.affrc.go.jp/kaiyo/kaiyoubu/predict/index-j.html>

（文責：釧路水産試験場資源管理部、TEL：0154-23-6222、FAX：0154-23-6225）